

# 読書リレーをしよう

一年間の学習の成果を確認する

教科書一年

好きな作品を選び、自ら取り組もう

(読・話・聞・書七)

少年の日の思い出 小説

ちょっと立ち止まって 説明文

【七時間配当】



## 一 基本的な考え方 学習のとらえ方

「好きな作品を選び、自ら取り組もう」は、一年間で培った力をもとに、生徒が主体的に取り組むための学習の場として位置づけられている。一年間のまとめの学習となるので、話す力・書く力など、今まで身につけてきた学習の成果を確認することも、次年度(二年生)に向けての課題が確認できるようプランを考えてみた。

活動の概要は、二つの学習材を読み、同じ作品・テーマを選んだ生徒集団をつくり(第一次)、共通テーマの本を持ち寄り、グループで一つのブックトークをつくりあげ(第二次)、学級内で学習の成果を発表し合う(第三次)というものである。

この学習でポイントとなるブックトークとは、あるテーマに沿ったさまざまな分野にわたる何冊かの本を、内容の説明を加えながら順序よく紹介し、本への興味・関心を喚起させるものである。グループによるリレー式のブックトークにしたのは、すでに学習した読書スピーチと、二年次のブックトークとの橋渡しとして学習を位置づけたためである。そのため、名称を「読書リレー」とした。

この学習で身につけさせたい力

「本を語ること」によって話し手の思いを語る「ブックトーク」では、国語科における目標の一つである「伝え合う力」が重要な要素となる。したがって、特にこの学習で身につけたい力は、次のようなものになる。

- ・様々な種類の文章を読み内容を的確に理解する能力を高めるとともに、読書に親しみものの見方や考え方を広げようとする態度を育てる。(学習指導要領「第一年」目標(3))
- ・自分の考えや気持ちを的確に話すためにふさわしい話題を選び出すこと。(学習指導要領A「話すこと・聞くこと」(一)イ)

話し合いの話題や方向をとらえて的確に話したり、それぞれの発言を注意して聞いたりして、自分の考えをまとめること。(学習指導要領A「話すこと・聞くこと」(一)ハ)

## 二 観点別評価の進め方

「おおむね満足できる」状況と判断するための視点  
〔第一次〕学習材からテーマを設定することができたか。それぞれの学習材の内容から大きく逸脱していなければ「おおむね満足」する。

〔第二次〕自分が設定したテーマをもとに本を探し、紹介し合えたか。伝える紹介する(内容がまとめられたか。あまり質を問わず、テーマに沿った本を自分で探し出すことができれば「おおむね満足」とする。  
〔第三次〕伝えたい内容をまとめ、発表することができたか。

第二次から第三次にかけては、この後のグループ内での話し合い(紹介し合い)を経て、自分の紹介する本やグループ内での共通材料、自分の思いなどをどのようにまとめているかを評価する。

「努力を要する」状況にある学習者への対応

〔第一次〕気に入った作品を選ぶよう助言する。  
〔第二次〕グループ内の仲間どうしでお互いに苦手な部分を補い合ったり、教師がより具体的な視点を提示し、『TRCDジュニア』(図書館流通センター)や出版社のブックリストなどを参考に本を探させる。また、紹介文が書けない生徒には、「登場人物のキャラクター」「話のなかの出来事」など、ポイントを具体的に提示し、あらずじや感想だけの文章にならないような支援をする。

〔第三次〕口頭発表が苦手な生徒には、教師が事前に原稿を添削し、発表練習を十分に行うよう助言する。

三 指導と評価の計画例（七時間）

第三次 (第六時・七時)	第二次 (第三時～五時)	第一次 (第一時・二時)
発表し合い、一年間の振り返りをする。 * 評価：スピーチ、相互評価、自己評価	グループで決まったテーマに沿って、本を探す。それぞれが探してきた本についてグループ内で簡単に紹介し合い、本と本をつなぎ（紹介する順番を決め）ながら、お互いに内容を検討し合う。での話し合いをもとに、自分の紹介文を書く。 * 評価：紹介文、相互評価、自己評価	二つの文章を読んで、内容をとらえる。作品別にグループをつくり、「テーマ」について話し合う。

四 この学習のポイントとなること

読書リレー（ブックトーク）の進め方  
 グループで話し合い、テーマを決める  
 『少年の日の思い出』『ちょっと立ち止まって』のうちどちらを出発本にするのかを選ぶ。そして、同じ作品を選んだ生徒どうしでグループをつくり、その内容から考えつくつかのテーマを出し合い、さらにその中から一つのテーマを選ぶ。

テーマ：「友情いろいろ」

ねらい：いろいろな友情を描いた本を紹介し、友達について考える。

取り上げる本(書名・著者名)：『そこに僕はいた』辻仁成／『ハリー・ポッターと炎のゴブレット』J・K・ローリング／『十五少年漂流記』ウェルヌ／『走れメロス』太宰治／『盲導犬クイーの一生』石黒謙吾



<b>1 テーマの提示</b> (テーマについての簡単な紹介)
<b>2 『そこに僕はいた』</b> みなさんも、「わたし」と「エーミール」のように、友達と気まぎらな経験があると思います。同じような話がここにもあります。(以下、あらすじの紹介や読み聞かせ、感想など、本の紹介をする。)
<b>3 『ハリー・ポッターと炎のゴブレット』</b> 今度の本は、みなさんもよく知っている仲良し三人組の話です。この三人組の友情にもヒビが入りそうになります。(以下、映画のパンフレットを見せたり、前作の内容を織り交ぜて本の紹介をしたりする。)
気まぎらなくても、ちゃんと元通りになれる、そんな友達関係はやはりいいですね。
*以下、順次、同じように展開していく

《発表原稿例》(グループ用)

テーマに基づいて本を探す

似たような内容のものばかりにならないように、テーマの話し合いのとき、グループ内である程度調整をしてもよいし、複数の本を持ち寄り、の話し合いで調整してもかまわないだろう。

グループで本を紹介し合い、発表する順番を決める  
 テーマ設定と紹介する本の選択ができたなら、その本をグループ内で簡単に紹介し合う。このとき、どのように紹介していくかを話し合ったり順序を決めたりする。内容も順序も単なる羅列にならないよう、中心となる本を決めたり、前の本とのつなぎ方に注意するなど工夫が大切である。

紹介文を書く

それぞれの本の紹介文を書く。生徒は第三単元の『わたしの一冊』を紹介しようで読書紹介スピーチの学習を経験しているので、比較的スムーズに原稿を書くことができるだろう。

学級でグループごとに発表し合う

時間的に余裕があれば、発表前に各グループでリハールを行うとよい。

最後に具体的な展開のイメージを紹介する。

出発本：『少年の日の思い出』ヘッセ著

一年間の学習の振り返り

振り返りシート	振り返りシート	振り返りシート
好きな作品を選び、自ら取り読もう。学習の振り返り 振り返りシート(1)	振り返りシート(2)	振り返りシート(3)
振り返りシート(4)	振り返りシート(5)	振り返りシート(6)
振り返りシート(7)	振り返りシート(8)	振り返りシート(9)
振り返りシート(10)	振り返りシート(11)	振り返りシート(12)
振り返りシート(13)	振り返りシート(14)	振り返りシート(15)
振り返りシート(16)	振り返りシート(17)	振り返りシート(18)
振り返りシート(19)	振り返りシート(20)	振り返りシート(21)
振り返りシート(22)	振り返りシート(23)	振り返りシート(24)
振り返りシート(25)	振り返りシート(26)	振り返りシート(27)
振り返りシート(28)	振り返りシート(29)	振り返りシート(30)

《振り返りシートの例》

この学習は「内容・テーマをとらえる(読む)」「グループでテーマや本について話し合ったり紹介し合う(話す・聞く)」「紹介本の紹介文を書く(書く)」「学習の成果を伝え合う(話す・聞く・言語)」といった、一年間に学び、身につけてきた学習の成果を総合的に確認する場でもある。

学習の最後に振り返りを行うことによって、生徒一人一人が、自分自身の課題や目標を発見・自覚し、次年度からの授業に見通しをもって前向きに取り組むことができるよう工夫した。

## 四種類の読み方で

### 『走れメロス』に迫ろう

教科書二年  
本の世界を広げよう  
走れメロス 小説  
短歌と俳句 それぞれの表現 解説  
【四時間配当】  
(読四)



#### 一 基本的な考え方 学習のとらえ方

「本の世界を広げよう」というタイトルのもと、『走れメロス』と「短歌と俳句、それぞれの表現」、それにブックトークがセットになった単元を、文学作品の読みに重点を置いて取り組んだ指導例である。配当時間が四時間しかない中で、ここでは『走れメロス』のみを扱い、残りの学習材は、第四単元と第五単元の間にある「本の世界を広げよう」(十二月)で扱うものとする。

『走れメロス』は長く採用されている学習材で、さまざまなアプローチで実践されているし、また、多くの学習活動を組織することが可能な作品である。「ここでは「読むこと」の学習として位置づけ、次のような異なる四種類の「読み」を学習活動として計画した。

〔第一次〕 声に出して読む。

全員が輪になり、一文ずつリレー読みする。

〔第二次〕 語彙や用法を読む。

よくわからない語句や用法の意味を調べる。

〔第三次〕 多角的に読む。

ワークシートを使って読みを広げる。

〔第四次〕 主題や要旨を読む。

登場人物が作者にあてて手紙を書く。

#### 二 観点別評価の進め方

「おおむね満足できる」状況と判断するための視点語句の意味や用法を新しく自分のものにできる。

〔第一次〕

主題とかかわる内容の手紙が書ける。〔第四次〕

「努力を要する」状況にある学習者への対応

国語辞典に慣れていない学習者に対しては、コンピュータを利用させる(もちろん、この逆もありうる)。学習の多様化をねらって、最初から辞書とコンピュータを学習者を選択させることも考えられる。〔第一次〕手紙を書くこととする人物に関する情報を文中から抜き出して、気づいたことを挙げさせる。〔第四次〕

#### 三 指導と評価の計画例(四時間)

第一次 (第一時)
学習材のリレー読みをする。 いすをフルツバスケットの状態にして座る。 一人一文ずつ本文を音読する。 * 読めない語句、不自然な読み方、聞き取りにくい読み方などがあれば適切な読み方を教える。 疑問点を一つだけカードに書いて提出する。 * 何を書けばよいのかわからない学習者には印象に残った場面や意味のわからない語句などを振り返るよつにさせる。

どの「読み」も一時間ずつ行い、四時間でこの学習をまとめる。学習者は、まだ文学的な文章を味わう力の伸長が期待されている状態であるので、じっくりと味わいながら読みを深める学習ではなく、活動や環境などを変化させて主題や作品への興味を持続させる学習となるように意図した。

可能であれば、第二次の学習をコンピュータルームや図書室で行うことをお勧めしたい。第二次は難語句の意味や用法を調べる学習なので、コンピュータの辞書ソフトを使うこともできる。学習環境を意図的に変化させることで、学ぶ意欲の持続が期待できるだろう。

この学習で身につけさせたい力  
文脈における語句の効果的な使い方を理解し、自分の言葉の使い方に役立てる。〔第二次〕

(学習指導要領「読むこと」第二学年及び第三学年の指導事項ア「語句の意味や用法」)

文章を読んで人間・社会などについて考え、自分の意見をもつ。〔第四次〕

(学習指導要領「読むこと」第二学年及び第三学年の指導事項エ「主題や要旨と意見」)



《学習者の疑問を利用したワークシート例》

第四次 (第四時)	第三次 (第三時)	第二次 (第二時)
<p>* 必要に応じて、手紙の意図や読み取った主題について尋ねる。</p>	<p>ワークシートを使って読みを広げる。 ワークシートの課題について考え、作品の読みを広げる。 * 第一次に書いた疑問カードをもとに、ワークシートを作っておく。</p>	<p>わからない語句や用法の意味を調べ。 図書室やコンピュータルームで、国語辞典やPCの辞書を使ってよくわからない語句の意味や用法を調べ、ノートにまとめる。 * 必要に応じてコンピュータやソフトウェアの操作を教える。</p>

四 この学習のポイントとなるところ

多様な学習活動を用意することで、多様化する学習者の興味や特性に対応することが大きなポイントである。万人に適した学習活動がないのならば、異なる学習活動を

組み合わせることで万人に対応しようという発想である。「このような学習計画においては、学習者が混乱しないように学習活動を配列することが重要である。ここでは「音読」「意味調べ」「ワークシート」「手紙」という流れを作ることで、漸次学習者の読みが広がり、深まりをもつように計画した。

また、「語句の意味や用法」と「主題や要旨と意見」に焦点化していることもポイントである。学習指導要領「読むこと」の指導事項は、前述の二つのほかに「内容把握・要約」「ものの見方や考え方」(第一学年)、「構成や展開」「情報の活用」(全学年)、「表現の仕方」(第二学年および第三学年)がある。「表現のしかた」をねらいとすることも可能だが、「故郷」など第三学年の学習材で扱ったほうが深まりが期待できると考えた。

学習者の疑問を利用してワークシートを構成したことも、学習意欲の持続をねらったものである。指導者が意図的に内容を構成してもかまわないが、ここでは自分以外の学習者の疑問に触れることで、見方や考え方が広がることを期待している。35ページに示した例では、扱った内容が少ないが、学習活動で扱った事柄以外にもいろいろの要素があるというところに気づくことがねらいなので、あえて作品の要素全部を網羅しなかった。

「読むこと」を焦点化

# 人が「生きる」姿を読む

「悲しみ」と「希望」をキーワードに

教科書三年第四單元  
状況に生きる  
人間の生きる姿をとらえよう (読五)  
故郷 小説 随筆  
二つの悲しみ  
お辞儀するひと 詩  
視野を広げ、考えを深めよう (書三)  
表現のしかたを工夫して書く  
自分の考えを訴えよう (話・聞一)  
聞き手の心に届くよう「スピーチ」する  
【十時間配当】



## 一 基本的な考え方

### 学習のとらえ方

この單元では『故郷』(小説)、『二つの悲しみ』(随筆)、『お辞儀するひと』(詩)の三つの学習材がメインとなり、その学習をもとにして「書くこと」「話すこと・聞くこと」の学習が展開できるように構成されている。教科書の中でも最も読みこたえのある單元であるので、「読むこと」を中心とした学習を計画した。

どの学習材もテーマは重く、描写や心情も奥深いので学習者は読み解く糸口を見つけにくい。そこで、単元全体を読み解くためのキーワードを用いて、作品理解と単元のねらいに導くことを考えた。そのキーワードとしては、「悲しみ」と「希望」を選んだ。

学習の進めやすさを考えて、学習材の順序を入れ替え、「二つの悲しみ」、『お辞儀するひと』、『故郷』の順とした。これは「悲しみ」から「希望」へとキーワードを追っていくほうが効果的だと考えたからである。

また、作品のスケールの大きさと、「悲しみ」と「希望」という二つのキーワードがはっきり表現されているという点から考えて、『故郷』に重点を置くように構成するのが自然だと考えた。

『二つの悲しみ』で、筆者が体験した二つの「悲しみ」。

『お辞儀するひと』で、劉桂琴<sup>リウケイキン</sup>さんが日本で感じたさまざまな思い。『故郷』の中で、「わたし」が故郷を去るに際して感じた思い。これらは、時代も国も状況もさまざまであるし、決して「悲しみ」と「希望」に収れんできないような単純なものではない。しかし、これらの作品を「悲しみ」と「希望」という二つのキーワードを糸口として読み解いていくことで、より深い読解が可能になると考える。

奥深い表現の読解を通して、学習者が人間の生き方、社会と人間の関係について、自分の意見をもつように変容することが期待される。

学習の流れは次のとおりである。

それぞれの学習材について、いつの時代の、どこの国の、どんな状況が場面になっているかを調べ、その結果を発表し合う。この活動は、文章の概要をとらえる読みである。読み取りが主であるので、調べ学習に傾斜し過ぎないようにした。

「悲しみ」ということが明らかに表現されている』『二つの悲しみ』を学習する。肉親を亡くした二人の描写に注目し、その人物の「悲しみ」の姿と作者の思いを考えていきたい。

『お辞儀するひと』を学習する。肉親に会えなかった

劉さんの状況からその「悲しみ」を想像し、作者の劉さんへの思いを考えていきたい。

『故郷』を学習する。二つの学習材で学習した人間の「悲しみ」を考えながら作品を読み進め、最後に「希望」について、個々の意見がまとめられるように学習を進めていきたい。

なお、ここでは「読むこと」の学習だけに内容を絞り、「書くこと」「話すこと・聞くこと」に関しては、ほかの單元で扱うこととする。

この学習で身につけさせたい力  
学習指導要領(「読むこと」)

ウ 表現の仕方や文章の特徴に注意して読むこと。

エ 文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつこと。

読むこと目標

- ・登場人物の描写や心情の変化に注意して読み、作者の思いを読み取ること。
- ・さまざまな状況のなかで生きる人間と社会との関係について理解し、自分の考えをもつこと。

## 二 観点別評価の進め方

「おおむね満足できる」状況と判断するための視点

関心・意欲・態度：作品に描かれている人々の生きる社会や生き方について、理解しようとする意欲がある。  
読むこと：登場人物の置かれている状況・心情を理解し、人間と社会について意見を持つことができる。  
「努力を要する」状況にある学習者への対応  
作品に出てくる登場人物に焦点をあて、その描かれ方を具体的に読み取らせる。

三 指導と評価の計画例（十時間）

第二次 (二時間～三時間)	第一次 (一時間～二時間)
<p>『一つの悲しみ』を読んで、二人の登場人物の描写を読み取り、その「悲しみ」について書くこととした作者の思いをとらえる。(一～二時間) 『お辞儀するひと』を読み、劉さんの置かれている状況、行動から思いを読み取り、作者の思いをとらえる。(一時間)</p> <p>* 評価：それぞれの作品の登場人物の悲しみを読み取り、作者の思いをとらえることができたか。</p>	<p>三つの作品の背景について調べる。 いつの時代か・どここの国か・どんな状況がそれぞれ発表する。 * 評価：作品の時代背景について関心をもって調べることができたか。</p>

第四次 (一時間～二時間)	第三次 (四時間)
<p>故郷を立ち去る「わたし」の「希望」について、自分の考えを文章にまとめる。 * 評価：「わたし」がいう「希望」について、考えたことを文章にまとめることができる。</p>	<p>『故郷』を読み、「わたし」が故郷で感じた「悲しみ」と、立ち去るときに考えた「希望」について読み取り、作者の思いをとらえる。 全文を通読し、あらすじをとらえる(語句調べは課題)。 表現のしかたに注意して、「わたし」の感じた悲しみを各場面から読み取る。 ・冒頭の部分：「もともとは故郷はこんなふうなのだ」「やるせない」などの表現に注意する。 ・ヤンおばさんの変化：「豆腐屋小町」「コンパス」「行きがけの駄賃」などの表現に注意する。 ・ルントウとの再会：「不思議な画面」「銀の首輪の小英雄」「でくのぼうみたいな人間」「悲しむべき厚い壁」などの表現に注意する。 これまでの読み取りを踏まえて、「わたし」が故郷を立ち去る場面での「悲しみ」と「希望」を読み取る。 * 評価：故郷の様子や人々の変化をまとめ、「わたし」の「悲しみ」と「希望」を読み取り、作者の思いをとらえることができたか。</p>

四 この学習のポイントとなること

学習材を扱う順序について  
「悲しみ」と「希望」というキーワードを糸口にして作品を読み解いていくため、「悲しみ」がはっきり表現されている『一つの悲しみ』を最初に学習し、その後『お辞儀するひと』、最後に「悲しみ」「希望」がはっきり表現されている『故郷』を学習したほうが生徒にもわかりやすく、学習も進めやすいと思われる。

主題と意見について

三年生の二学期での学習であるので、「社会や人生に對して自分なりの意見をもつ」ことを大きな目標として授業を展開していきたい。

ここで大切なのは、学習活動を通して意見をもつことである。太平洋戦争や強国の侵略による社会変動など、この学習を通して知ったことから出発した「自分なりの意見」を期待したい。

イラク戦争などの報道にじかに接している学習者たちであるので、学習材の読み取りとは別の知識や情報をもとに考えたり、テレビのコメンテーターの意見を自分のものとしてしまったりしないように注意したい。

表現のしかたについて

登場人物の描写や心情の変化は、作者の意図や思いが読み取れる部分である。それだけにより広く、より深く読み始めるときりがない。学習活動では、ねらいがぼやけてしまわないように、場面や人物、心情などを限定したうえで読み深めていくようにしたい。また、自分とは異なる読み取りにも接することができるような学習形態も工夫したい。

